

杏林散策

一人のために

方波見 康 雄

12月のある朝、札幌行きの特急に乗るべく美唄駅に車で向かう。大学病院での予約受診のためである。看護師の松田さんに運転をしていただく。

夜来の雪と道路拡張工事のため道幅が狭い。街中を抜け出ると風が雪を舞い上げ、路面がスリップしやすい。行き交う車は師走のせい、せわし気ではあるが、心なしかスピードを緩めている。

路線バスが私たちの車の行く手をのろのろと遮り、郊外のバスストップで客を乗せていく。着膨れしたおばあさんが一人乗り込む。つぎのバス停では、毛編みの帽子を真深くかぶったお年寄りがまた乗り込む。バスを追い越して車を走らせると、吹き曝しの停留所にそれぞれ、ぼつねんと一人でバスを待つ老人の姿を見かける。

朝早くどこに行くのでしょうかね、たぶん病院でしょうね、こうして一人ひとりのために、ていねいに立ち寄ってくれるバスはありがたいですよ、と松田さんがつぶやく。

つぶやきに実感がこもっていた。じっさい、私たちの診療所に見えるお年寄りの患者さんにしても、嘆きはバスの便がめっきり減ってしまったことにある。町内の巡行バスも、大きな工場の通勤時間帯には増便するが、それを過ぎると、たちまちにして便数が減る。家族に車で送迎してもらえるお年寄りもいるが、遠慮もあるそうである。だいいち、家族は共働きで不在であるし、ほとんどが老夫妻のみの同居か独居というのが現実である。冬ともなると嘆きは、さらに深まる。

ある老婦人はタクシー代を惜しんで歩いて来院するが、30分はかかるという。それに、冬場の道歩きは危険である。小路の四ツ辻で、スリッパした車にいきなり出くわして転び、肋骨骨折をした85歳のおじいさんがいる。肺気腫に加えて心房細

動と僧帽弁逆流・肺動脈弁逆流の患者さんである。余計な出費や気苦労を強いられながらの通院は、雪と寒気や冷気も重なり、老いの身にはこたえる。奈井江町外からの患者さんは、もっと大変である。

そういう臨床現場に身をおく日々だけに、大きな体を揺さぶるようには停留所に立ち寄り朝の路線バスのウィンカーの瞬きに、<一人のために>という眼の優しさとメッセージ性を、松田さんは女性の看護師らしい柔らかな感受性で、新鮮に感じとったようである。

それにしても世の中はいま、<一人のために>ということが、おろそかにされている。巷には、「ケータイを持ったサル」が横行して、ひたすら液晶画面を見つめてはモノログの世界に閉じこもっている。かたや、マニュアル化した、やたらと懇懇な言葉や笑顔が氾濫しているが、職場を離れると過剰なマニュアルサービス疲れで、とたんに不機嫌な表情に戻ってしまう。内実に欠けた、二重人格みたいな、不機嫌で閉塞感が漂う世相に日本はなってしまうている。それだけに<一人のために>は、さまざまな意味合いのある言葉でもある。

ところでふと気になったのは、寒風をつき、ようやくにして病院に辿り着いた患者さんに、医療側がどのような応接をしているのかということである。<一人のために>とは、医療人であれば誰しもが抱えている心構えである。だがこれを、きちんと伝えるような仕組みを、私たち医療側がどこまで細心に用意しているのかとなると、大いに疑問の余地がある。

たぶんこうしたお年寄りの多くは慢性疾患の患者さんでもあり、長時間待たされることが多い。

ちかごろ流行りの「様」付きの名前で呼ばれても、内実の伴わない扱いを受けているかもしれない。そして待たされたわりには診療時間が短い。忙しそうなお医者さんの顔つきや、中待合室に控える患者さんに気兼ねして質問もできずに帰ることになってしまう。虚しさを残しての通院ということになる。よく耳にするのは、患者さんの多くが、こういう不満や不安を訴えていることである。

<一人のために>はこうして、医療側にも考え直すべき問題を投げかけている。あるいはまた、このような臨床現場の困惑を生み出している医療制度の仕組みや診療報酬のあり方の矛盾、病診連携の未成熟も含め、大きな構造的課題の解決を促している。

省みて、我は何をなすべきか、そういう自問もまた医療人、とりわけ臨床医としては大切になってくる。臨床医がかかわる患者とは、疾患や基準値を外れたデータではなく、実在する人間であり、他の人たちとは全く異なったユニークな仕方

で生活する世界に二人とはいわない、唯一性の存在一実存的存在の人間だからである。

冬の日の朝、バス停に佇む老いの姿が黙示する<一人のために>の意味合いは深い。現役の一開業医師ではあるが、同年代の一患者の身でもあるだけに、ことさら考えさせられるものがあった。こうした機会を持ち得たことはありがたいことである。患者になることも、年老いることも、臨床医には有用な経験である。あらためてそう思った。

大学病院での受診の折りに、主治医が先ず口にしたのは「札幌もこの雪、奈井江はどうですか。今日ご自分の車ですか、それとも電車ですか。遠いから大変ですね」という言葉であった。患者はこの一言で十分なのである。ちなみに主治医は教授でもある。

<一人のために>とは難しいことではない、要するにこうした心配りから始まるのである。それも、内発的なものとして。

お知らせ

電子メールを利用している 会員への情報提供について －メールアドレスの登録－

◇情報広報部◇

本会では、インターネットを利用し、電子メールにより緊急性の高い情報を、会員の皆様に送信提供しております。対象は当会のダイヤルアップ接続登録者(hokkaido.med.or.jp)全員と他プロバイダの電子メールアドレスをお持ちになっていて、本会にアドレスを登録している会員です。

他プロバイダの電子メールアドレスの登録につきましては、随時受け付けておりますので、是非ご登録いただきたくご案内いたします。

なお、今回、他プロバイダの電子メールアドレスをご登録になれる会員には、もし、でき

れば本会のメールアドレス(hokkaido.med.or.jp)を取得(無料・ダイヤルアップ接続申込み)されるようお願い申し上げます。

●電子メールアドレスの登録方法

電子メールまたはFAXで、ご氏名、登録メールアドレスを明記のうえ、下記宛お送りください。

- ・申込先メールアドレス：
add@office.hokkaido.med.or.jp
- ・申込先FAX番号：(011)252-3233